

加盟競技団体 御中

安全を確保してアーチェリーを楽しみましょう

夏季休暇も中盤に入り、練習・合宿等に勤しんでいると思います。

日々の活動の中で、天気が不安定な季節の大会や練習で気をつけなければいけないのが、熱中症と落雷被害です。悲しい事故のニュースを耳にします。そして、適切な対応をしなかった、として指導者が裁判にかけられているケースもあります。

「**落雷は防げないが、落雷事故は防げる**」という判断をもって活動に取り組んでください。

雷は自然災害ではあるものの、雷の音が聞こえたり、光が見えたりしたら、すぐに試合や練習を中止し、避難させれば事故は防げる、とされています。

指導者のもと活動をしているアーチャー達は、指導者・監督・役員の指示に従います。「まだ平気ではないか」「まだやれるんじゃないか」「ここは大丈夫だ」等の判断は危険です、素早く指示をして安全を確保しましょう。

確認と点検

1. 雷被害が起こった場合、指導者が問われる責任としては、事故を防ぐためにどのような安全対策をどこまでとっているか。
2. 緊急時の対応方法や、会場や弓具の安全性・安全行射などのチェックは万全であったか。落雷や強風・豪雨などを想定して避難できるような場所を確保しているか。
3. 「けが」が起こってしまった時の対応策が事前に用意されているか。
救急箱の準備、近隣の病院との連携・連絡方法の準備
4. 指導者の緊急時における対応方法の知識は十分であるか。

避難

1. 雷鳴が聞こえたらすぐ避難しましょう。雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。
2. 木や電柱から4 m 以上離れましょう、側撃雷の恐れがあります。
3. 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。
4. 避難指示が出たら弓具・アローを体から外しましょう。
5. 建物や屋根付きの乗り物（自動車など）へ避難しましょう。
6. 雨宿りで木の下に入るのは危険です。

平成 26 年 8 月 7 日
(公社) 全日本アーチェリー連盟